

FARNEY DANIELS

Life Sciences – ライフサイエンス

Farney Daniels の弁護士は特許訴訟において長い成功の歴史があり、薬剤、医療用具、コンピュータハードウェアやソフトウェアの特許訴訟において主要なテクノロジーの知識を持っています。当事務所のチームはデラウェア、テキサス、ウィスコンシン、フロリダ、カリフォルニアなどアメリカ国内の連邦裁判所での訴訟、また米国外交貿易委員会（ITC）にて勝訴を収めています。更に、広域係属訴訟の経験も多く持っています。裁判所や交渉の場における経験の多さが、トップ企業がなぜ当事務所を複雑な特許案件の弁護人として選ぶかを裏付けています。また、各弁護士の表彰の他に、特許訴訟件数においてアメリカ国内2位に選ばれています。

Farney Daniels のライフサイエンスプラクティスはバイオテクノロジー、製薬、医療機器などの分野に対応しています。私達はこれらが細分化された専門分野ではなく、関わりあう分野であることを理解しています。新薬発見においてはバイオテクノロジーが関係しており、医療器具では薬品や生物学が影響しています。最新技術に関する案件において、各専門分野の弁護士と連携し、質の高いサービスを提供しています。

リーガルとテクノロジー

Farney Daniels の弁護士は様々な科学分野の学位を持ち、科学やライフサイエンスに関する経験、企業内の事業戦略、訴訟戦略に関する経験を豊富に持っています。薬剤、バイオテクノロジー、医療機器、テレコミュニケーション、コンピュータハードウェア、ソフトウェア、またインターネットテクノロジーに関する訴訟の経験もあります。Farney Daniels の弁護士はライフサイエンスに関するほぼ全分野のクライアントに対応できるスキルを持っています。現在は大手薬剤企業、バイオテクノロジー、医療機器企業、またスタートアップ企業など様々なクライアントに対応しております。

リーガルサービス

当事務所では特許の価値評価、また申請中特許の価値を最大にするための戦略や収益化の計画に関するアドバイスを行っています。短期的また長期的ゴールを達成できるように、個人や企業のクライアントへ自信を持って対応しております。また薬剤、バイオテクノロジー、そして医療機器の特許訴訟を地方裁判所、控訴裁判所で行い、グローバルな知的財産案件にも携わっております。

Farney Daniels は訴訟とビジネスの両方の視点からアドバイスを提供する他にはない弁護士事務所であると定評を頂いています。この特有な取り組み方法により、訴訟とビジネスを切り離して考えるのではなく、ひとつのビジネスゴールとニーズとして捉えることにより幅広いサービスと提供することができます。更に、昨今、多数の企業が自社保有特許から利益を得るため、テクノロジーチームへの期待を高めています。当事務所では経営陣から課される目標を達成するためのアドバイスもしております。

Team



Bryan Farney
Managing Shareholder
bfarney@farneydaniels.com
+1-512-582-2810



Steven R. Daniels
Co-Founding Shareholder
sdaniels@farneydaniels.com
+1-512-582-2820



Michael A. Siem
Shareholder
msiem@farneydaniels.com
+1-512-948-3133



Aya Cieslak-Tochigi
Associate
atochigi@farneydaniels.com
+1-512-948-3132

ANDA 訴訟 & Hatch-Waxman カウンセリング

当事務所の弁護士は薬価競争及び特許期間回復法（「the Drug Price Competition and Patent Term Restoration Act」）、通称「Hatch-Waxman Act」に関する案件において、ANDA（後発薬）申請から最終製品のマーケティングまで豊富な経験を持っています。熟練した訴訟弁護士とサイエンスに関する専門知識を持つ弁護士がトップクラスのアドバイスを提供しています。またクライアントとパートナー関係を結ぶことによって、法律がどのような影響をビジネスにもたらすのかを理解しています。

当事務所の弁護士は、法律、複雑な訴訟の仕組み、裁判官、またテクノロジーを理解することによって特許案件を成功させています。訴訟開始段階から、クライアントのゴールに沿った戦略を共に組み立てていきます。当事務所では公判前のサマリージャッジメントや訴訟で多々の成功を収めています。また裁判だけではなく、クライアントの目標達成をするためのビジネスソリューションを共に見つけ出す手助けも致します。

技術面につきましても、ライフサイエンスチームの弁護士や技術アドバイザーは、バイオテクノロジーと薬剤特許法に関する様々な科学分野の学位やライフサイエンスに関する経験を持っています。また対費用効果が高くなるよう専門知識を適用しています。専門知識を持つ弁護士と技術アドバイザーが訴訟チームの一員であることにより、薬剤とバイオテクノロジー特許訴訟においての様々な問題を正確に把握し、成功を収めるために必要な点に集中することができます。

当事務所の弁護士は、裁判官による審理と陪審審理ともに幅広い訴訟、裁判経験があります。特にライフサイエンス訴訟において、ディスカバリ、証言録取、専門家証人、マークマンヒアリングなどにおいて豊富な知識があります。また、発明、ライセンス、特許侵害、有効性、また不正な行為に関する法的な問題点においても経験があります。更に Farney Daniels の弁護士は Hatch-Waxman 訴訟での和解契約に基づく独占禁止法の問題に関するアドバイスも行い、米連邦取引委員会（FTC）のガイドラインや手続きに関する知識も豊富にあります。このように Hatch-Waxman 訴訟において全体的なアドバイスをすることにより、クライアントのニーズに応えています。

2013年アメリカ国内特許訴訟件数 (2009-2013)

Rank	Firm	Open Cases	Total Cases
1	Fish & Richardson	308	1,027
2	Farney Daniels	216	590
3	DLA Piper	188	599
4	Winston & Strawn	165	477
5	Kirkland & Ellis	154	498
6	Perkins Coie	150	501
7	Finnegan Henderson	141	398
8	Kilpatrick Townsend & Stockton	136	436
9	Cooley Godward Kronish	135	384
10	McCarter & English	133	384

Lex Machina 2013 Patent Litigation Year in Review より

